

## 復活祭を迎えて

主任司祭 吉池 好高

ご復活祭おめでとうございます。

今年も4月15日の復活徹夜祭で7名の方々が洗礼をお受けになります。四旬節の間、洗礼志願者の方々のために祈ってきたわたしたちは、洗礼によって結ばれる新しい兄弟姉妹とともに復活祭の喜びをともにします。「後にいる者が先になり、先にいる者が後になる」という主のみことばを思い起こし、わたしたちみながともにこの喜びに与ることができるよう、自分が受けた洗礼の恵みを思い起こしましょう。

四旬節の初めに行われる洗礼志願式は、わたしたちの共同体全体にそのようなことを呼びかけています。自分が受けた洗礼を新たな心で思い起こし、この恵みに応えて生きる決意を新たにすることが、四旬節の回心の呼びかけが求めていることです。

十字架の上に死に、復活されたイエス・キリストを「わたしたちの主」と信じる信仰に、カトリック信者としてのすべてが掛かっています。イエスが復活されたことによって、イエスの十字架の死の意味が明らかにされたのです。イエスが復活されなかったなら、イエスの十字架の死は、たとえ人々の胸を打つ悲惨な出来事であったとしても、全ての人の死と同じように、やがては歴史の闇の中に忘れ去られてしまったことでしょう。イエスを慕っていた人々のイエスへの追憶もその人たちの死によって、消えて行ってしまったに違いないからです。そうであったなら、イエス・キリストの死と復活を告げ知らせるキリスト教の信仰は成立せず、その信仰を伝えるキリスト教の教会の誕生することはなかったことでしょう。

そうだとするならば、その教会において洗礼を受けて、キリスト者となったわたしたちの信仰も存在しなかったのです。先にも述べたように、イエスの十字架の死は、イエス・キリストの復活によって、はじめてその意味が明らかになるのです。その意味とは、イエスの十字架の死はわたしたちのための死であったということです。イエスは、復活によって示された神の子としてのいのちをわたしたちに与えるために、十字架の上で死んでくださったのです。それほどまでに、わたしたちを愛し、その愛のゆえに死んでくださったのです。